

3. 権利擁護ネットワークにつなげるための初期対応

- 支援初期の段階から、支援者は本人や家族の本質的な生活課題を見出し、本人中心の解決方法を探り、関係機関の実情に沿った役割分担を調整する視点が必要です。
- 初期段階での抱え込みを防ぎ、ネットワークによる支援に展開していくために、事例からみえる対応のポイントを整理しました。(右・チェックシート)
- 支援が途切れてしまった場合、関係機関との連携につながっていない場合、初期対応の振り返りに活用していただければと思います。

初期対応のつまづきは、どこから始まっているのか？

初期支援の着眼点	認識不足？	経験不足？
本質的な生活課題に気づく	「気づこうとしない」	「気づくことができない」
事実確認する	「確認しようとしていない」	「確認できない」
本人や家族と面談する	「会おうとしない」	「会うことができない」
本人や家族の視点で生活課題を見直す	「見直そうとしない」	「見直すことができない」
関係機関と支援方針、役割分担を検討する	「検討しようとしていない」	「検討できない」
地域の実情に沿った役割分担を再調整する	「再調整しようとしていない」	「再調整できない」
支援経過を定期的に報告、共有する	「共有しようとしていない」	「共有できない」
<期待される展開> ・ 関係機関によるネットワーク支援 ・ 本人主体の問題解決 ・ 身近な地域の権利擁護相談の充実	<想定される事態> ・ 権利侵害状態の助長 ・ 生活課題の複雑化、困難化 ・ 相談機能の低下 ・ 思い込み、抱え込みの支援 ・ 依存 ・ 業務負担の偏り ・ 非効率な業務運営 ・ 支援者間の関係悪化	

- 地域の関係機関のネットワークは、支援に活かされているでしょうか？
- 事例検討会やケース会議の着眼点、ネットワーク会議の論点として、「初期対応」を振り返ってみてください。